

<報道関係各位>

2021年4月6日
大阪経済大学

**人間科学部・相原正道教授が、
令和3年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 理解増進部門を受賞
業績「世界で最も地球に優しいスポーツスポ GOMI の普及啓発」
SDGs 達成のために不可欠な持続発展教育 (ESD) として “スポ GOMI” を研究**

大阪経済大学 (学長: 山本俊一郎 / 所在: 大阪市東淀川区大隅 2-2-8) は、人間科学部 相原正道教授が、2021年4月6日、令和3年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰において科学技術賞 理解促進部門を受賞しましたのでお知らせします。

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めています。理解促進部門は、青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループから選ばれます。

相原正道教授は、スポーツ競技の要素を組み込んだスポーツゴミ拾い大会を運営・推進する「日本スポ GOMI 連盟」理事として普及啓発に携わり、また運動効果と環境教育の観点から研究を行いました。

■大阪経済大学として2人目の文部科学大臣表彰受賞者 学部としては初

本学の文部科学大臣表彰の受賞者としては、情報社会学部 中村健二教授 (平成28年度 科学技術振興部門) に次ぐ2人目。人間科学部としては2002年の開設以来初となります。社会科学系の中規模大学である本学からこの5年で2名の研究者の実績が評価されたこととなります。

■SDGs を達成するために不可欠な持続発展教育 (ESD) スポ GOMI の教育効果の高さを示す

持続可能な発展のための教育 (Education of Sustainable Development, ESD) という考え方は、教育現場では持続発展教育といわれています。日本において実践されている持続発展教育は、野外スポーツの分野での取り組みが見られるものの、スポーツを用いた取り組み事例はありませんでした。そこに注目して、相原教授は持続発展教育の観点からスポーツゴミ拾い大会の実践事例について分析。スポ GOMI が運動効果と環境教育の視点から、教育効果が高いことを示しました。スポ GOMI は教育価値向上に寄与する重要な取り組みであり、SDGs 達成の鍵となる可能性もあります。

相原正道 (学長補佐、スポーツ・文化センター長、人間科学部教授) の受賞コメント

政府は「第6期科学技術・イノベーション基本計画」の研究開発投資予算の目標を今後5年間で過去最大の30兆円、官民合わせた研究開発費の総額を120兆円とし、今年度中に閣議決定する見通しです。日本は研究力低下に歯止めをかけて、イノベーションを起こせるのか。背水の5年間を迎えている中、40代最後の歳に文部科学大臣表彰を受賞できたことは科学者として光栄なことです。これまでお世話になった皆様に本当に感謝しております。今回の受賞が、若いスポーツ科学者の励みになれば幸いです。

<本件に関するお問い合わせ先>

大阪経済大学 経営企画部広報課 高濱・白神 TEL: 06-6328-2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp
大阪経済大学 広報デスク (プランニング・ポート内) 福嶋・山村 TEL: 06-4391-7156
<https://www.osaka-ue.ac.jp>

受賞概要

業績名：世界で最も地球に優しいスポーツスポ GOMI の普及啓発

海洋ごみや気候変動などの環境問題が世界的な社会問題となっているが、なかなか個人レベルの日常生活と繋がらず、どこか他人事である。IOC は、オリンピック・パラリンピックなどのスポーツイベントの実施において、施設建設などを含めた自然環境への悪影響を最小限に留める環境保護を果たすことを積極的に推進している。また、国連においては、SDGs を含めた環境価値を高めることを重視しており、特に環境教育における体験型学習の少ないことは IOC と国連の共通の課題となっている。そのため、子供の運動効果と環境教育の観点から教育価値を創出するスポーツイベントが求められていた。本活動は、従来の清掃活動とは異なり、スポーツ競技の要素を組み込んだスポーツゴミ拾い大会（スポ GOMI）である。誰もが可視的に地域独自のゴミという環境容量を理解できる。スポーツと環境活動を融合したスポ GOMI は、2019 年 12 月末までに 948 回開催され、延人数で約 95,000 人が参加している。本活動により、運動効果と環境教育の視点から教育価値の向上に寄与している。

受賞者名：馬見塚健一（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ代表）

相原正道（大阪経済大学 学長補佐、スポーツ・文化センター長、人間科学部教授）

森保文（国立研究開発法人 国立環境研究所 社会システム領域 主席研究員）

主要論文：「清掃活動とスポーツの組み合わせがボランティア募集に与える影響」環境科学会誌、vol. 28(3)、p230 ～ 240、2015 年発表

「Practical Study of the Sports Garbage Pickup Tournament in Japan:Sports Events to Solve Social Problems」Journal of Sports Science、vol.7(2)、p56 ～ 64、2019 年発表



相原正道教授 略歴

1971 年東京生まれ 49 歳。専門はスポーツマネジメント。2015 年 4 月より大阪経済大学人間科学部准教授に就任。2017 年 10 月より教授。2019 年 4 月からは学長補佐およびスポーツ・文化センター長を務める。

これまで、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事業部門マネジャー、経済産業省委託調査「平成 30 年度商取引・サービス環境の適正化に係る事業：スポーツ産業における新たなビジネス展開や国際化に関する調査事業」アドバイザー、スポーツ庁委託調査研究「第 1 回 障害者のスポーツ施設利用及びスポーツ参加の課題等の調査研究有識者委員会」委員、大阪府「都市魅力戦略推進会議」委員兼スポーツ部会長、大阪市長居球技場（桜スタジアム）指定管理事業予定者選定会議座長、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西閉会式基本方針業務に関する公募型プロポーザルに係る選定委員会委員、大阪市八幡屋公園ほか 5 施設（中央体育館、大阪プール、修道館、大阪城弓道場、長居球技場）における指定管理事業予定者選定会議座長、大阪市長居公園（及び長居陸上競技場、大阪市立長居公園地下駐車場及び大阪市立長居ユースホテル等）指定管理事業予定者 9 施設選定会議委員を歴任。

現在、大阪府「日本万国博覧会記念公園運営審議会」委員、大阪市「スポーツ振興施策検討有識者会議」座長、大阪観光局「大阪・関西スポーツツーリズム&MICE 推進協議会」副会長、大阪市教育委員会「大阪市立学校における部活動のあり方に関する有識者会議」委員等。